

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 54

（財京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター）

特集 地域情報の発信



まちづくりイベント
景観・まちづくり大学
京町家まちづくりサロン
京あるき in 東京 2011

まちづくり報告
「町家も自分の子供のように」
まちの魅力を、再発見！伝えてつながる、まちづくり

コラム
私と京都
ふっきーの徒然なるままに
スタッフのつづやき

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

センターからの
お知らせ

「上杉本 洛中洛外図屏風（レプリカ）」常設展示



一般公開 3月16日～
ひと・まち交流館 京都地下1階

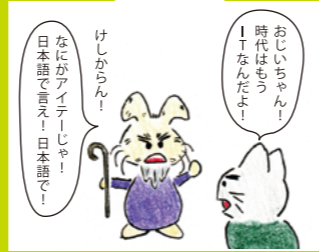
安土桃山～江戸時代にかけて活躍した天才絵師、狩野永徳が当時の京の市街（洛中）と郊外（洛外）の風俗を描いたとされる屏風絵を現代のデジタル技術で再現。4世紀前の町衆、武士、貴族達の生活が鮮やかに描き込まれ、美術品としての価値の高さもとより、当時の都市、建築を知る上でも貴重な資料である。オリジナルは、山形県米沢市上杉博物館に所蔵されている。

個人賛助会員

相原 満 / 相部 高宏 / 青木 正文 / 青木 義照 / 秋山 智則 / 秋山 正俊 / 東 憲明 / 足立 和康 / 天利 義一 / 荒金 博美 / 安藤 丈智 / 石川 貴洋 / 石田 光暉 / 石原 一彦 / 石原 久子 / 石本 智子 / 石本 幸良 / 糸井 恒夫 / 伊藤 真嗣 / 稲石 勝之 / 稲波 良幸 / 乾 亨 / 犬伏 真 / 井上 信行 / 今富 僚二 / 岩崎 清 / 岩崎 亘男 / 上田 萌子 / 上原 智子 / 江籠 義貞 / 江田 頼宣 / 大島 仁 / 大谷 孝彦 / 岡崎 篤行 / 岡田 圭司 / 岡野 哲也 / 岡本 正二 / 岡山 尚義 / 小河 亜紀子 / 奥田 隆司 / 奥 美里 / 押谷 昌成 / 景山 良一 / 笠岡 英次 / 賀長 浩絵 / 桂 豊 / 加藤 昭 / 上久保 聡子 / 神谷 宗宏 / 亀井 孝郎 / 川上 輝夫 / 河崎 尚志 / 河邊 聡 / 上林 研二 / 上林 隆 / 岸田 幹男 / 北川 洋一 / 北村 テエ子 / 来海 賢一 / 木村 悦子 / 木村 繁 / 木村 忠紀 / 木村 真紀子 / 桐澤 孝男 / 黒木 省二 / 桑原 尚史 / 桑原 秀喜 / 合田 有作 / 小杉 貴子 / 小西 操 / 小林 正純 / 金剛 育子 / 酒井 英一 / 坂本 登 / 坂本 正寿 / 相良 昌世 / 佐藤 七重 / 佐藤 洋 / 佐藤 友一 / 真田 松寿 / 式部 圭 / 柴崎 孝之 / 島田 和明 / 冷水 隆治 / 清水 博之 / 上代 眞廣 / 杉浦 伸一 / 杉本 憲二 / 鈴木 知史 / 炭崎 勉 / 関岡 孝緒 / 園 孝裕 / 醍醐 孝典 / 高川 祐子 / 高木 勝英 / 高木 伸人 / 高谷 和代 / 高谷 基彦 / 武井 政石 / 竹内 実 / 竹林 哲 / 田中 里実 / 田中 靖啓 / 田中 理世 / 田中 良平 / 田辺 真人 / 谷口 一朗 / 谷口 功尚 / 谷口 容造 / 多見 貞子 / 谷本 真也 / 出嶋 恵理 / 寺田 恵子 / 寺田 敏紀 / 寺本 健三 / 徳永 博己 / 冨家 裕久 / 冨山 育子 / 内藤 郁子 / 中川 慶子 / 中川 名津 / 長崎 愛 / 中沢 洋雄 / 中島 弘益 / 長瀬 勝実 / 仲西 弘樹 / 中野 重治 / 中村 伸之 / 中村 有希 / 中山 雅永 / 那須 勝子 / 生川 慶一郎 / 西澤 孝子 / 西澤 亨 / 西嶋 淳 / 西島 篤行 / 西邑 昭裕 / 西村 健 / 能勢 舞 / 野村 正樹 / 齒黒 健夫 / 畑 正一郎 / 旗 哲也 / 早崎 真真 / 林 建志 / 林 道弘 / 東野 嘉之 / 平竹 洋子 / 広瀬 綾 / 吹上 裕久 / 福島 正俊 / 福田 菊 / 福林 文孝 / 藤村 知則 / 藤本 春治 / 船橋 律夫 / 古川 眞理子 / 古川 英志 / 古川 幸隆 / 平家 直美 / 細川 義明 / 堀野 欣哉 / 堀 有輝子 / 本田 徹 / 前田 確 / 正木 敦士 / 松井 浩一 / 松田 彰 / 松本 正 / 松本 正 / 丸本 治 / 三島 時夫 / 水田 雅博 / 溝上 省二 / 三村 浩史 / 宮本 日佐美 / 元持 清 / 森田 弘之 / 森 広士 / 柳原 博實 / 山田 昌久 / 山田 宏隆 / 山本 一博 / 山本 耕治 / 山本 茂 / 湯浅 博史 / 由木 文彦 / 横山 経治 / 吉永 順子 / 淀野 実 / 米谷 朋恵 / 和田 豊志 / その他の皆さま

2011年2月末現在

京兎物語 ベンネーム ひこ



（財）京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
（河原町五条下る東側）ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL:075-354-8701 FAX:075-354-8704 <http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

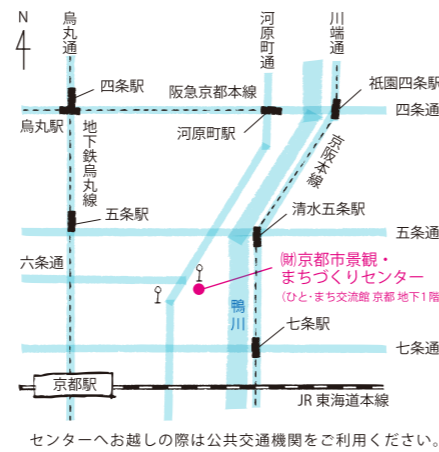
開館時間
平日・土 9:00～21:30 日・祝 9:00～17:00

休館日
毎月第3火曜日（国民の祝日にあたるときは翌日）
年末年始（12月29日～1月4日）

交通系統
バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



さすがまちセン！ 町家で子育てを楽しむ
助かるわね。 ポイントを教えてください！
《詳しくはホームページにて》



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design: Marble.co



文 = 和田野美久仁 他 3 名

特集

景観・まちづくりシンポジウム

地域情報の発信

— いまどきの地域かわら版を作りませんか? —

従来からの回覧板だけでなく、最近では Web を使った方法など、新たな地域情報の発信の取組が始まっています。

今回の景観・まちづくりシンポジウムでは地域で活動されている方や情報発信の専門家を交えて地域の文化や歴史、生活等に関する情報を、地域の中で共有する意義や発信する方法について意見交換を行いました。

どうして
必要なんだろう?

地域情報って何?



地域情報の発信
— いまどきの地域かわら版を作りませんか? —

第1部：パネルディスカッション

まちの情報をどう伝えるか — その意義と方法 —

コーディネーター：谷口 知弘氏（同志社大学教授）
パネリスト：菅谷 幸弘氏（六原学区自治連合会事務局長）
杉井 正治氏（NPO 法人京都・深草ふれあい隊 竹と緑 理事長）
松田 規久子氏（京都新聞社地域報道部長代理）

2/20（日）14～17時
会場：ひと・まち交流館 京都 大会議室

第2部：分科会

チラシ・広報誌分科会 一枚のチラシから始める住民交流
— まちのチラシ・回覧から広報誌・冊子づくりの工夫まで —
マップ分科会 地域マップを活かしたまちづくりの方法
— まちづくり事例と最新技術情報から学ぶ! —
Web 分科会 あなたのまちを Web で伝えてみませんか?
— Web による地域の情報発信のメリットと手法を知る —



第1部 パネルディスカッション

まちの情報をどう伝えるか — その意義と方法 —

まちの自治機能が低下し、公的サービスへの期待が高まる中で、価値観の多様化もあり、公的サービスにも限界が見えてきています。一方、地域の課題が増える中で、助け合って解決することが不可欠になってきています。そこで、つながりを新たに紡ぎだし、まちかどに地域の人が出てきて議論したりすることのできる地域社会を取り戻すために、地域情報の発信について考えました。

第2部 分科会

より詳しく地域情報の発信について話し合うために分科会を行いました。

チラシ・広報誌分科会

チラシ等の印刷物を作る上での工夫を伺いました。荒木祐靖氏（松尾学区）から「これから起こることを中心に、家庭内で最初に見ることの多い主婦の感覚でレイアウトしている。回覧では時間がかかるので全戸配布を心がけている」、河原司氏（デザイナー）から「集合写真でなく、自然に活動されている姿を使うのがベター。受信者のために発信することを意識する」とのお話がありました。その後、意見交換では、情報を伝えたいターゲットの絞り方、紙媒体と電子媒体（HP）の役割分担、デザイン、印刷コストを抑える工夫について意見交換を行いました。



今回のポスターのデザイナーさん



事例紹介 1

六原学区では…

地域の人に学区の情報を知ってもらうことで意識を高め、情報を共有することで連帯感が生まれます。また、HPなどを使い、地域外の人にも関心を持ってもらえます。元々地域の人にも情報発信のターゲットです。最近では以前よりも若い人の参加が増えてきました。



六原学区 HP

事例紹介 2

深草では…

深草の散策道路を知ってもらい、来てもらうためにトレイル（散策路）マップを作りました。この「深草トレイル」を通じて次の活動を行う雰囲気がかんかん出てきています。マップを作っていく過程でいろんな団体との連携が生まれました。



深草トレイル散策マップ

こちらの URL から
深草トレイル散策マップがご覧になれます。
<http://www.city.kyoto.jp/fushimi/trail/index.html>

マップ分科会

岩崎宣男氏（龍池学区）から学区の「福祉や昭和のまちなみのマップ」についてご説明いただき、瀬戸寿一氏（立命館大学）からは、国内外のマップによる情報共有の事例や、フリーマップについて教えていただきました。参加者から、「センターのHPなどに地域マップを書き込めるようなデジタルマップが欲しい!」「地域で作る時にどこまでの情報を載せればよいの?」等のご意見をいただきました。



Web 分科会

実際に地域のHPを見ながら、まちづくりに参加しやすい環境づくりと Web ツールの活用について話し合いました。HPは、広報誌や回覧版を保管しておく住民共有のアーカイブとしても有用であり、新しい住民とのコミュニケーションツールとしても期待されています。センターのHP支援事業も活用の可能性が広がりそうです。六原学区のHPは内向け：外向け＝7：3で構成しているそうです。Web ツールの活用は、誰に向けて発信するのか、どのようにコミュニケーションの回路を開くかをあわせて考えることが大切と話し合いました。



新しい工夫のある取組は、新聞など広範囲に伝わるメディアに取り上げられることにより他の地域にも伝播していきます。情報を作る過程で、「地域資源が再認識され、人とつながるきっかけになった」という成果もあります。問題を共有することで盛り上がりの糧にもなり、色々な相乗効果が生まれます。

シンポジウム終了後、地域の方と座談会を催しました。「他の地域が何をしているのを知りたい。」といった声や「行政が情報発信を手伝う企画があるらしい」等の声が聞かれ、地域を越えた情報交換の場につながることを期待しています。



こんなにあり！
地域のHP

地域のマップも
色々あります。

実際にHPを
見ながら意見交換

〈前号より〉
マチ右衛門夫妻に赤ちゃんができましたが、その後すくすく育ち、ある日の散歩中…
よしよし。
元気に生まれてきてね。

景観・まちづくり大学

— 2011年 冬季・春季イベント報告 —

景観・まちづくり大学

京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

学生まちづくりセミナー

地域のまちづくり活動に直接触れ、地域社会のあり方について学ぶ。

京のまちづくり史セミナー

先人の取組を学ぶことで、これからの京都のまちづくりを考える。

京町家再生セミナー

町家のプロから町家の特徴を活かした改修、活用、実践的な知恵を学ぶ。

京町家再生セミナー参加者の集い

人との出会いや体験を通して町家のおつきあいや、次代へつなぐヒントを知る。

学生まちづくりセミナー 「高瀬川の流れとともに歩むまち」

3月1日～14日まで、ひと・まち交流館 京都1階の作品展示コーナーと地下1階企画展示コーナーに、約80cm×2mの色鮮やかなパネルがお目見えしました。これらのパネルは、京都市立芸術大学デザイン科1年生(32名)が京都の歴史の講義を開き、地域の方によるフィールドワークを通して作品を完成させたものです。

学ぶ



京都の歴史について学び、地域の方の話を聞く

12月22日、センターで平安京の成り立ちからまちの成り立ち、元学区のことまで、京都のまちづくり史について講義を行いました。高瀬川流域周辺を題材に、歴史や人との関わりについて活動されている「高瀬川会議」の方と地域の方の協力を得て行いました。

まち歩きから、高瀬川とまちの繋がりを考える

2つの班(菊浜～永松と立誠～銅駝)に分かれた学生グループは、地域の方や高瀬川会議の方からお話を伺いながらまち歩きを行いました。高瀬川に沿って、それぞれの学区を散策し、高瀬川の変遷や周囲のまちや人と川がどのように関わってきたのか、現地を歩きながら学びました。

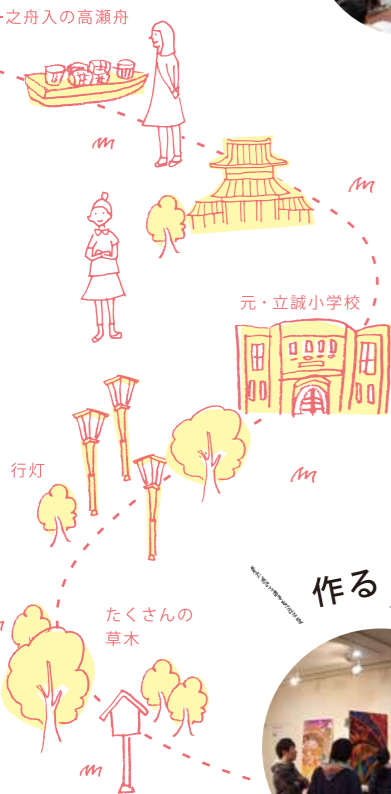


歩く

学生の集大成・地域を描いた作品展

まち歩きの後、個々のコンセプトに合わせて、図書館で文献リサーチや現地でもスケッチを行いイメージを膨らませました。そして、切り絵や段ボールなど多様な技法を用いて作品に仕上げました。

作る



学生の声

桂川 菜々子さん
舟入用の堰止め石と坂本龍馬や新撰組を入れて歴史背景を演出しました。立地上舞妓さんを選ぶ学生が多く、違うものを描いてみました。



時藤 愛さん
夕暮れ時の、木屋町の点々と連なる行灯の灯りにどきりとし、テーマに選びました。



村里 愛美さん
菊浜を訪れた時、川沿いにたくさんの植物があるのが印象的でした。植物や川が整備され、菊浜の人々がまちを大事にしていると感じました。



学生の自由な表現力により、地域の魅力がたくさん詰まった作品になりました。地域の方に、自分のまちの魅力を再発見してもらう良い機会になったと思います。

文 = 岡田朋子

京のまちづくり史セミナー

第6回 京の道とまちなみ景観① — まちなみと調和した道の景観づくり —

講師：川崎 雅史氏 (京都大学大学院教授)
開催：1月22日(土)
会場：京都市景観・まちづくりセンター

川崎先生が委員長をされ、策定された「京のみちデザイン基準」では、京都全体を一つの庭園として考えることができ、「道」は主役を引き立てる脇役としての役割がある、としています。

京都では主街道の正面には緑の山がみえるため、借景を考えることが必要となり、まちなみに統一感を与えるためには単に街路樹の緑の量を増やすのではなく、道路の先に見える山並みの形まで考える必要が



あるなど、道路を計画し、造る側の考え方をお話いただきました。道路の景観を考えるとき、単に美しいというだけでなく、道路と沿道の建物との調和をどう考えるかが重要になります。民地側と公共の道路が接する、縁側の空間と呼ぶ中間領域も都市景観形成に大きな関係性を持っており、色を調和させる等、民地側で配慮できることとその事例紹介もありました。

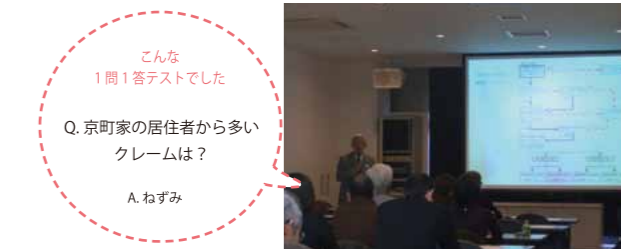
文 = 和田野久久

京町家再生セミナー

第3回 町家を購入する・借りる際のポイント

講師：西村 孝平氏・畑 信太氏 [社京都府宅地建物取引業協会]
開催：11月27日(土)
会場：京都市景観・まちづくりセンター

1問1答のテスト形式でセミナーが始まりました。参加者の方は久しぶりのテストだった上に、一人ずつ答えを発表することになり、緊張した面持ちでしたが、西村氏の軽快な話し方と分かり易い説明で、一気に和やかな雰囲気。賃貸契約の種類や仲介手数料等、知らなかった、誤解していたことがたくさんで、「へえ～」の連発でした。



テストの後は畑氏による講義で、「京都の町家に住もう」ということについて、建物だけでなく地域の特徴、賃貸契約や改修時の注意点等を丁寧に教えていただきました。30名を超える参加者の方皆さんは、熱心にノートを取っておられ、充実した2時間を過ごしました。

文 = 浜谷富美子

京町家再生セミナー参加者の集い

第3回 町家でカフェをする魅力 — 町家の個性とその活かし方 —

ゲスト：黒野 由里子氏 (mocomococafe)
谷口 明代・加寿子氏 (cafe 箔屋)
コーディネーター：朝倉 真一氏 (まちひろば計画工房)
開催：12月5日(日)
会場：mocomococafe

本屋さんを足と運ぶと、町家カフェを特集した雑誌や本を見かけます。なぜ、そこに人は惹かれ集うのでしょうか？ゲストのお二方も、町家でおしゃれなカフェを営まれています。今回は、そんな町家のカフェで美味しい飲み物とお菓子をいただきながら、そのきっかけや想い、大変なことや町家だから出来る楽しみ等、お話をうかがいました。後半は、町家でどのようなカフェをしてみたいか、



会場全体で意見やアイデアを出し合うワークショップを行いました。「自分もカフェをしたいと思っている」という想いで参加された方も多かったのが印象的でした。これからも、知りたい答えのヒントを人とのつながりの中から見つけていただけるような、集いの場を運営していきたいと思ひます。

文 = 大屋みのり



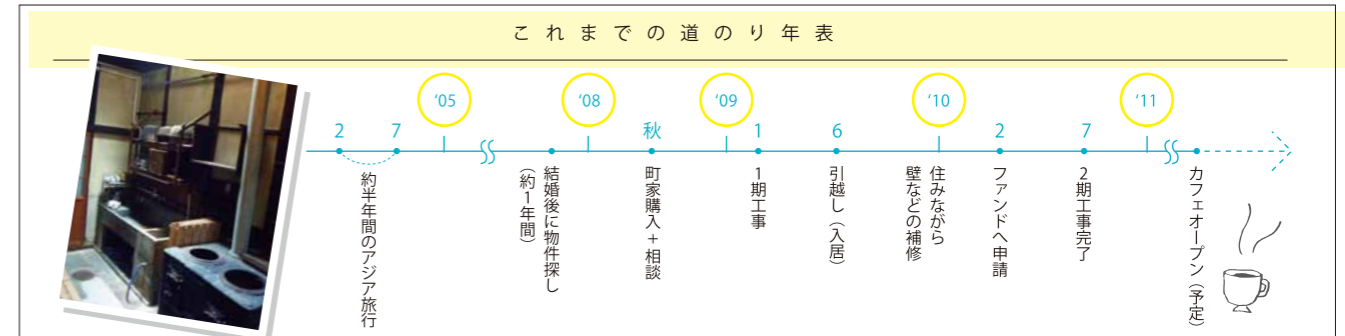
そう言えば、子どもにとってうちの家はどうかしら。階段は急だし、冬は寒いし、育てにくいかなあ…?

「町家も自分の子供のようになった」

— 京町家保全・再生の事例 —



今回は、ご夫婦と子供さんのお住まい（将来、カフェをオープン予定）として再生された丸山家のご紹介です。「町家も自分の子供のように思うようになった」ご夫婦の経験をお聞きました。



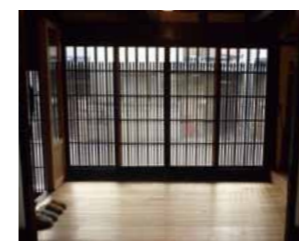
今回の改修の概要

今回の改修は、2期に分けて行いました。まず1期工事で、内部の改修をした後に引越しました。その後、2期工事で京町家まちづくりファンドに応募もして、外観部分とミセの間の改修等を行いました。

町家を購入されるまで

約半年間のアジア旅行で目の当たりにした各国の特色ある町並みの素晴らしさと、その旅行がきっかけで出会った京町家の所有者がきっかけとなり、京都の町家に興味を持ちました。帰国後に結婚してから、町家に住みたいという気持ちが湧いてきました。それから町家探しの日々です。「古民家付」の土地を見に行っては違う…。なかなか目当ての町家に巡り合えません。

やっと可能性のありそうな町家に巡りあったのが2008年の秋。場所は、河原町丸太町を東に1本入った通り。ただし、この町家は、総2階モルタル大壁の看板建築でした。改修すれば綺麗になるのだろうか…、という不安を京町家作事組さんに率直に確認したところ、「大丈夫！」との言葉を信じて購入を決意しました。



1期改修

2009年に入ってから1期工事でした。工事が始まる前までは不安でしたが、疑問な点や分からないところを設計者の末川さん・工務店の山内さんに分かりやすく答えをもらい解消していきました。工が進むに連れて変わっていく町家を見るのが楽しくて、毎日のように現場に顔を出すようになりました。町家に対する愛着もだんだん湧いてきましたが、工事中には、白蟻被害が見つかる等ハプニングもありました。

引越し

引越後に、壁の中塗り、柱のベンガラ塗りなども住みながら行いました。隙間風や床の軋みにもだんだんと慣れていきました。



2期改修

2010年の夏に終了しました。改修が終わり、足場が外れて現れたファサードの感動がすごかったです。地域からは、若い人が入ってきてくれたと歓迎され、改修をしたことで地域の人の注目も集まったようです。

文 = 中島宏典

7

満足のできる改修の秘訣は？

『町家だから』と気張らず普通の感覚でいたことで、町家に対する固定概念を持たなかったことかもしれません(笑)。蟻害が見つかったも、隙間風が吹いても、床が軋んでも、「手が掛かる子やなあ」くらいの気持ちでいられることが大切かもしれませんね。



京町家まちづくりサロン

— 第1弾 京の文化・旬を味わう —

in 四条京町家



京都のお酒についてお話



七輪で鯛焼き



具沢山粕汁



おくどさんで豆ご飯

※今回の京町家まちづくりサロンは、NPO法人四条京町家「町家塾」と共催で行い、参加費の一部は、「京町家まちづくりファンド」への寄付とさせていただきます。ご協力を頂いた方、参加者のみなさまには、この場をお借りして感謝申し上げます。

「京町家まちづくりサロン」は、京町家を舞台とした様々な体験を通して、京町家の魅力を実感していただくために実施しています。今回は、1月29日(土)に四条京町家で開催した「造り酒屋に聞くお酒のお話と節分料理」についてご報告します。

まず、洛中伝承の造り酒屋「佐々木酒造」の佐々木氏にお越しいただき、京都のお酒について話をうかがいました。日本酒の種別や製造過程についてじっくり学んだ後は、しぼりたての純米吟醸を試飲させていただきました。続いて、参加者全員が3チームに分かれて節分料理作りにチャレンジ。「七輪で鯛焼きチーム」は、七輪の火おこしから始め、大きな金太郎鯛をこんがり焼きました。「おくどさん(かまど)で豆ご飯チーム」は、おくどさんを使って、炒った大豆を入れる珍しい豆ご飯を炊きました。「おだいどこで粕汁チーム」は、佐々木酒造さんとこの酒粕を使った具沢山粕汁を作りました。みなさんで力をあわせて作った節分料理は大変おいしく、会話も弾み、新酒もまた格別のお味となりました。

京都創生PR事業

京あるき in 東京 2011

— 恋する京都ウィークス —



京町家まちづくりファンドのPR

オープニングイベントや物産展「京の老舗めぐり」などで、京町家まちづくりファンドのPRを行いました。ファンドでは、京町家を守り、未来へと継承していくために皆様のご寄付を募っています。

期間：2月8日(火)～22日(火)
会場：日本橋三井タワー1Fアトリウム、小田急百貨店新宿店 他

京都の景観・まちづくり講座 in 東京

— 京都に暮らすコト、町家に住まうコト —

講師：小針剛
(町家倶楽部ネットワーク事務局長、フリーカメラマン)

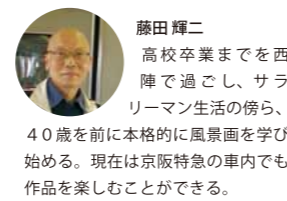
期間：2月12日(土) 14:00～15:30
会場：京都造形芸術大学 外苑キャンパス
首都圏の方に、京都の魅力、京町家の魅力を感じていただくために、東京で講座を開催しました。美しい京都の写真をバックに、観光客ではなくまちに暮らす人の目線で語る小針さんの面白トークに、会場は笑いがこぼれる和やかな雰囲気になっていました。参加者の方からは「京都に長期滞在したい」「町家に引越し検討中」という声も聞かれ、京都や京町家に対する関心の高さに驚かされました。



昔の画でめぐる、京都・暮しの風景

清水焼発祥の地 — 五条坂 —

ここ五条坂は清水焼発祥の地として陶芸店や窯元が多く軒を並べており、陶器めぐりや窯元見学など楽しみ方は色々ある。また陶器祭り(8月7日～10日)の時に掘り出し物を見つけるのも面白いかも? 今年は粋な湯呑みが欲しい…楽しみだ!



藤田 輝二
高校卒業までを西陣で過ごし、サラリーマン生活の傍ら、40歳を前に本格的に風景画を学び始める。現在は京阪特急の車内でも作品を楽しむことができる。

絵と文 = 藤田 輝二

今春開催

京町家まちづくり散歩 2011 春

清水焼発祥の地「五条坂」、京町家大工棟梁と巡る「下京」などの、ガイド付きツアーを開催します。詳しくはHPをご覧ください → <http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

文 = 小林明音

6

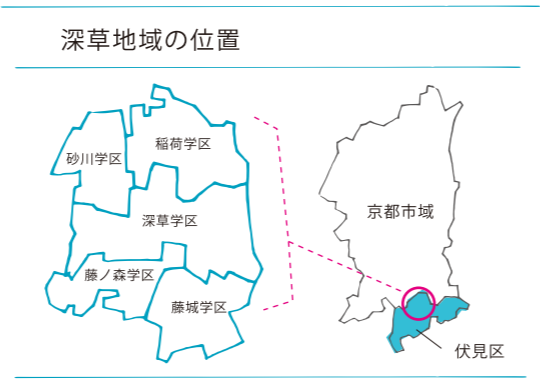


深草地域の取組紹介

まちの魅力を、再発見！ 伝えてつながる、まちづくり

— まちセン深草探検団 数珠つなぎ企画 参の巻 —

2009年6月にはじまった「まちセン深草探検団」数珠つなぎ企画。稲荷・砂川・深草・藤森・藤城の5学区の方が普段利用されている深草支所でイベントを開催したり、ブースを出展したりしながら、地域の魅力の掘り起しや情報発信の取組を進めてきました。「地域の魅力」と一言でいっても、いろいろあります。地域の方が思うまちの良いところ・好きなおところは、どんなところでしょう？そんなまちの宝物について、様々な視点から守り伝えておられる方々の取組を、ご紹介します。



深草は藤原俊成が詠んだ「夕されば野辺の秋風 身にしてみてうずら鳴くなり 深草の里」和歌でも知られています。

新たな地域の魅力を発見！

今年度は新たに、「芸術」「町並み」を切り口に、地域の魅力を探ることを試みました。いつもと異なった視点で改めてまちを見てみると、どんな姿が見えてくるでしょうか？それぞれの取組を、レポートします。



京都市立芸術大学デザイン科1回生作品 深草トレイル観光スポットパネル展 開催：2010年3月8日～3月22日/6月4日～7月9日

2010年度の京都市立芸術大学美術学部デザイン科1回生(31名)たちがNPO法人「京都・深草ふれあい隊 竹と緑」とセンターから、講義を受けた後まちを歩き、地域の魅力を表現したパネルを制作。深草支所で展示を行ったほか、6月25日には学生さんと来場者の方とで地域の魅力について語りあい、作品の活用方法を考えるワークショップを行いました。「地域の人は深草の歴史を案外知らないで、地域や市内向けにPRが必要」という地域の方からの発見があり、学生さんからは「地域を真剣にみただけで愛着が深まった」という声。作品の活かし方として、まち中に展示をしたり、地元や市内むけにカードやポストカード、パズルなどPRグッズをつかって広めては、というアイデアが集まりました。



作品や地域の魅力の活かし方について、アイデアをだしあって…



風鈴の鐘と舌のデザインを参道の陶器屋さん担当。鐘には名物の鳥居と雀が描かれています。短冊のデザインには学生のパネル作品が。



「石峰寺」デザイン科 佐々木知里さんの作品



「弘法の瀬」デザイン科 宮崎あゆみさんの作品

地域の魅力 1 自然
NPO法人 京都・深草ふれあい隊 竹と緑

深草地域は西に低く東に高い地形をしています。東側には古墳や寺社が多く存在し、そのまわりには美しい竹林が広がっています。筍農家の後継者不足で荒廃しつつあった竹林を、ボランティアの力で再生し、ピオトープづくりにも取り組んでいます。

地域の魅力 2 歴史・いつたえ
深草を語る会

深草地域には、藤森神社や伏見稲荷大社など有名な神社がある他、地域の方しか知らないような言い伝えや隠れた名所がたくさんあります。月1回集まり、こうした資料や歴史を集め研究し、より多くの人に伝えるための冊子づくりに取り組んでいます。

地域の魅力 3 思い出・まちの記憶
稲荷学区稲寿会連合会

稲荷学区には自治連合会がありませんが、こちらの老人会には230名以上の方が参加をされ、サークル活動などを楽しんでいます。子どもの頃の写真や近所で撮影したモノクロの古写真をもちより、座談会をひらきました。思い出の人や景色を見ると、共通の話題で盛り上がりまちへの愛着も深まります。

地域の魅力 4 地域の「今」
地域の方と伏見工業高等学校、(社)京都府建築士会

日々の暮らしの営みを支える地域の方の取組そのものも、宝物。自治連合会など地域の方が、次世代を担う生徒さんにまちづくり活動の「今」を伝え、景観や交通、防災などをテーマに、(社)京都府建築士会とともに高校のまちあるきプログラムや学習に協力しています。



第3期京町家まちづくり調査の報告と座談会 深草地域の住まいと町並み、今むかし展 開催：2010年10月28日～11月30日



深草地域の住まいの形について京町家居住支援者会議の皆様にお話いただきました。

2008・2009年度に実施した「第3期京町家まちづくり調査」で得られた深草地域における町家のデータや、「良好な景観」と評価された通り景観の写真、古地図や町家改修事例パネルなどを展示。伏見区役所深草支所、立命館大学、京町家居住支援者会議、当センターの4者による協同企画で、11月5日には地元の方々との座談会を開きました。地図を見ながら道路や鉄道、集落の変遷を読み解き、参加者からは子どもの頃に見ていた田や茶畑の風景、ワラでお風呂やごはんを炊いていたこと、外で遊ばないと家族に叱られたことなど、暮らしの記憶が語られました。明治、大正、昭和と各時代で、まちは大きな変化を重ねてきたことがわかりました。歴史や暮らしの文化を共有することで、まちへの愛着が一層深まったようです。「古い家の外観を活かした改修をして、大切にしていきたい」というご意見も寄せられました。



深草地域の景観で来場者に人気のあった写真の1枚。夜景や桜の季節も美しい。



農業をされていたお家では、母屋の横に農作業小屋が隣接していることも多いそうです。



私と京都

京都大学大学院工学研究科 研究員
森重幸子



間取りからまちへと 広がった住宅への興味



なぜか小さい頃から住宅が好きでした。折り込み広告に掲載されている住宅の間取りを見て、自分の家族構成を思い浮かべながら、この家ならどう住もうか、この家はちょっと住みにくそう、などと想像したりしていた記憶があります。戸建ての住宅が整然と立ち並ぶ、いわゆる郊外ニュータウンで生まれ育った私にとって、その頃、住宅は「間取り」でした。

京都で建築を学ぶことになり、建物と建物の間にできる空間にも興味を持つようになりました。特に、狭い路地に入り込むと、図と地が反転するような感覚をおぼえました。講義の中で聞いた「住宅はまちの一部」という言葉が強く心に残りました。また、古い町家と新しいビルが立ち並ぶまちなみを見ていると、まちの空間が個々の建物によって共有されていることの意味を考えさせられました。

卒業後しばらくの間、設計事務所で実務に没頭しました。住宅、集合住宅、レストラン、クリニック、薬局、結婚式場など、短い期間にいろいろな種類の設計に携わることができました。その中でも、最も面白く感じたのはやはり住宅でした。住宅の設計では、建築主との間で驚くほど濃密な話し合いが行われます。そんな打ち合わせの積み重ね

の上に完成する住宅は、しばらく時間が経過した後を訪れても、まるで私自身の家に帰るかのような懐かしい感覚をおぼえさせてくれます。

大学に研究員として戻ってからは、京都で暮らすいろいろな方々のお話を伺う機会に恵まれるようになりました。自分の家について、そこでの暮らしについて、さらに周辺のまちについて、生き生きと語られる姿にそこそこで出会うことができます。そういったお話を伺うにつれ、住宅はそこに住む人の思いの詰まった場所であり、その思いはまちに広がり、京都のまちにはそういった記憶が積み重なっていることを、実感として感じています。

今でも住宅への興味は尽きませんが、その意味するところは大きく広がりました。住宅とまちに積み重ねられた思いをつないでいくことには、法律などの社会の仕組みや、建築に関わる技術、人と人との交わりなど、様々な要素が影響を与えます。これまで、京都で活動されている様々な専門性を持った方々に出会いました。そういった出会いを大切に、住宅とまちへの思いをつなぐしくみについて、考えていきたいと思っています。

ふっきーの徒然なるままに

第7回 自然との共生 — 進化2 —



ふっきー

正義感が強く、いつも町内の皆のことを気にかけている真面目なリーダー。

以前、進化をテーマに、自然との共生、伝統的な暮らしの文化の継承という言葉をお題目かの如く謳いつつ、自然との共生能力を衰退させてきている理想的環境コントロール主義に対する矛盾、傲慢さを指摘したことがあった。それを踏まえて、今少し進化について考えてみよう。

さて、進化とは、それまでのあらゆる経験を遺伝子として残しながら、変化する新たな状況を更なる経験として受入れ、それに対する適応能力を培っていくものである、と言っておいた。過日、このことを人の脳の構成で説明しながら問題提議をされている講演を聞いた。人の脳は、脊髄の直ぐ上に最も古い機能・記憶の部分があり、その上に爬虫類的な単純な機能・記憶の部分があり、そしてその上に人類としての現在に及ぶ脳がかぶさっているという。脳も悠久の時の流れの中

で様々な経験を遺伝子として残しながら、環境適応能力を進化させてきたのである。今、この脳の進化が止まっているらしい。それは刺激を受けなくなって適応形質を発展させる必要がなくなってきたからだという。これは生体を形成する全ての細胞について言えることで、人類が科学に慢心し、自らを自然環境から隔離してきた結果、生体が進化する必要性を感じなくなったのである。この科学が、生態系に影響を与え続ける結果として、破滅的な環境変化が起こるのであろう。そしてその時には、人類の環境適応能力が衰退しているのである。想像しただけでも寒気を覚える状況ではないか。自分の身を鍛える努力をせず、嫌なものに触れないように生きることには限界がある。中途半端な自然との共生論などを語っている時代ではないのかもしれない。

スタッフのつぶやき



スタッフ H.F

センターのマザー・テレサ
Ich liebe Bier!
ビール大好き!

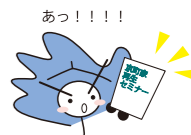


センターでの仕事は難しいですね。以前の私の仕事は、簡単に言うとモノの発注者。“お金は払うからこの通りに作って！”という立場。その責任も成果も発注者側にありました。ここでは発注する・される関係ではないので、その出来あがりはいろんな意味で驚くこともあります。…が、その大

切さもわかってきました。よりよい方向へ進めていくために今、心がけていることは、「相手の言葉に耳を傾けること」。私のまわりのすべての人から学ばせていただいています。ありがとうございます。

賛助団体

NPO法人 古材文化の会 / NPO法人 マンションセンター京都 / NPO法人 京滋マンション管理対策協議会 / 学校法人 瓜生山学園 京都造形芸術大学 / 桂坂学区自治連合会 / 株式会社 ゼロ・コーポレーション / 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹 / 株式会社 地域計画建築研究所 / 株式会社 マーブル / 京町家居住支援者会議 / 財団法人 手織技術振興財団公益事業部織成館 / 社団法人 京都府建築士事務所協会 / 修徳自治連合会 / 都市居住推進研究会 / 平安建材 株式会社 / 松ヶ崎自治連合会 / ミサワホーム近畿㈱ / 有隣自治連合会 / 立命館大学歴史都市防災センター / ローム 株式会社 / 一般社団法人 相続相談センター / 株式会社 フラットエージェンシー / 株式会社 八清 / 京都駅ビル開発 株式会社 / 社団法人 京都市観光協会 / 大阪ガス 株式会社 / 他1団体



あっ！！！！
「町家で子育てパワーアップ」セミナーだって。子育てしている人の話が聞けるみたいだよ。